

平成 30 年度 第 2 回学校関係者評価委員会の意見集約

日 時 平成 30 年 10 月 27 日 10:00～12:00

*学校祭への参加、資料送付

場 所 名古屋芸術大学保育専門学校 校内、駐車場

委 員 水越 省三（同窓会代表：葵名和幼稚園理事長）

武石 協子（企業代表：たきこ幼児園長）

土岐 純子（地域代表）

神戸 佳世（保護者代表）

藤澤卓美（校長）、杉浦宏幸（副校長）、木村節治（保育科長）、

加藤由美（教学主任）、立野好秋（事務長）

○学校祭への意見・感想等

- ・模擬店での子どものお客へ接する姿が、何の抵抗なくできているのを見て感心した。同じ敷地に園があるので、実習等に関わっており自然な姿となって現れていたように思う。
- ・幼児たちが目をひくイベントばかりで、大人も楽しめる親子企画になっていた。プラン作りや人形遊びは、親子で制作ができるため、親子の会話も引き出されてよかった。
- ・迷路の安全性が心配されたが、紐の高さなど細部にわたって考慮されており、見えなところ（例えば、机が積んであるところは、ガムテープで固定されていた）まで考慮されていた。けがや事故防止対策がしっかりされていた。
- ・バザーなど（フリーマーケット）も出店しても良いと感じた。
- ・親子制作を増やして実用的な簡単なものを制作して、思い出づくりができる企画を増やしたい。
- ・受付、チケット販売の誘導や説明があまりされていなかったため、分かりづらい部分があった。
- ・体育館での演目スケジュールの変更が、事前送付されたパンフレットと違って、見たいものを見ることができなかった。
- ・巨大迷路のコーナーが、とても上手に作られていて、子どもが楽しむことができた。

- ・学校祭は、多くの人（親子）と触れ合う機会なので、イベントを担当する学生も、もっと積極的に子どもたちに声かけを行うとよい。特に、小さな子どもたちには、学生から近寄っていき、親しみを持ってもらうように接していくことで、安心感や充実感を子どもたちがもつことができると思う。
- ・隣の園の親子参加が多く賑やかな学校祭であったし、十分に楽しむことができた。
- ・ステージ発表で、園児のダンス発表があり、学校祭が交流の場となっていた。
- ・ステージ発表で、特技のある学生参加が増えるとよい。
- ・5～6年前までは、授業で身につけたことを発展させ、クラスの仲間で協力してダイナミックな取組がされていた。学祭の取組に教員が関わること、側面からの援助が必要な時代なのかを感じた。授業で身につけたスキルと企画が合致することを期待する。

以上

○資料に関する意見等

- ・授業評価の向上した教員の授業との内容で、良かったと感じるが、評価を重んじるばかり、安定志向になってしまわないとよいと思う。
- ・造形、音楽などの芸術分野の学校であることの利点を活かして、教員の思い・志・この学校らしさの追求をしていくことで、より魅力的な授業となると思う。
- ・学校のカリキュラムに対する考え方を明確にされたことはよいと思う。
- ・学生募集に在校生との懇談の場を増やしていくことが大切である。
- ・めざす教育の中に、学校の特色が現れてきている。

以上